



善正寺だより

〒:512-0902
 三重県四日市市
 小杉町1014
 浄土真宗
 本願寺派
 善正寺
 ☎:059-331-1670
 fax:059-332-0733

掲示板法話

先立つ人は尊き善知識

「この命賜りて 有難う」と生き抜く

正月早々の能登半島地震以来、子供たちは、学校の防災教育の影響か、「ここは大丈夫?」とか「昭和南海地震にこの本堂は耐えることができたの?」などと盛んに心配をぶつけます。

「昭和19(1944)年12月の地震では本堂が傾き、屋根瓦が落ちるなどかなりの被害があったが、倒壊は免れた。本堂の南側に鉄骨の支えがあるが、あれは傾いた本堂を起こして支えにされたのだよ」と孫に教えました。

「昭和南海地震はM7.9だったから倒壊を免れたけれど、M8から9クラスの巨大地震ならばどうなることか、分からないね」と話すと、孫たちは無言でうなずきました。今後20年から30年の間に起きるかもしれない南海トラフ巨大地震に対しては、若い世代にもしっかり認識され、防災減災の備えをしてもらわねばなりません。

しかし我々はいつどんなことが起きるか分からぬ恐怖にただ、恐れおののいているだけでは空しいですね。地震がこなくても、我が無常の命は、いつどんなことで終わるかもしれません。



人生百年時代などと言いますが、それも限界があることを忘れてはなりません。この世は「老少不定」(高齢者が先に行くとは限らない)ですから、子や孫に先立たれる場合もなきにしもあらず、です。

「三悪道(地獄、餓鬼、畜生)を離れて人間に生まれたること、大いなる喜びなり」(源信僧都)と言われます。そこで、人間に生まれたからには、また迷いの世界に戻っていくことこそ、空しい。だから、「早く、後生の一大事を心にかけて阿弥陀仏を心かたのみまひらせて念仏申すべきものなり」(白骨の御文章)と蓮如上人は仰せです。

相次いで、年若き妻子に先立たれた上人は、人一倍無常の身を感じられ、「仏法は若い時にたしなめ」と聴聞を勧められました。

「人身受け難し、今既に受く。仏法聞き難し、今既に聞く。この身今生に向かつて度せずんば、さらにいづれの生に向かつてかこの身を度せん。大衆もろともに至心に三宝に帰依したてまつるべし」(礼讃文・三帰依文)。

人間には中々生まれられないのに、人間として生まれてきた。その人間の中でも仏法に遇うのは難しいのに、今聞かせて頂いた。この人生において仏の覚りを頂ける身にならなかつたらもう二度とチャンスはない。さあ、真心から仏を仰ぎ、仏法を聴き仏法の仲間と共に念仏成仏の道を歩もう(取意)。

先立つ人は我に真の生まれ甲斐を教えられたお方(善知識)です。空しく過ぎる人生でなく、「この命賜りて有難う」と「不退転」の道を生き抜きましょう。



善正寺
ホームページ



住職と坊守の
つれづれ日記

☆行事ご案内☆

◇春季永代経 講師:加藤学師

3月16(土)・17(日) 午後1時半

※16日午前10時半:お経開き(招待者)

◇三重組十三日講 3月13日午前・午後 野村康治師
菰野・法林寺様 Web 受配信も有り。

◇三全仏教婦人会総会 光念寺様

3月20日(祝・水) 午前9時より

【大募集】4月20日(土)1時『初参式』

赤ちゃんや幼児を大募集!千円、写真、冊子進呈
地域皆で仏の子供の誕生を祝福!是非ご参加下さい

夕方5時の鐘撞年中無休、誰でもOK、ご褒美有
一縁会テレホン法話059・354・1454

三重組5か寺が週替わりで担当。毎で3分法話

善正寺ホームページ 30年間毎月発行の善正寺だよりが

過去200号に遡り閲覧可能15年間毎日更新ブログ

『住職と坊守のつれづれ日記』が大好評、総訪問者数

42万9千人突破、お悩み相談可、即返信

新納骨堂後継者の無い方お墓でお困りの方相談を

法事場所でお困りの方本堂使用可。寺にご相談を

新法縁廟墓じまいや納骨でお悩みの方ご相談を

☆ 写真アラカルト ☆



坊守スケッチ

無形資産を育てる



「あなたは生きる上で何が一番大事ですか?」と尋ねられたら、どう返答されますか? おカネ、仕事、家族、健康、財産、地位等... 人夫々違います。

① 常に学び続ける心を持つ。② 心身共に健康であること。健康ならば、外の世界の友人と活動的な日常生活を送れます。

③ 変化と向き合う姿勢を持つ。生成AIが誕生以降、世界は予想外の變化です。これには無関心ではいられません。人には機械化できない「感情と繋がり」があります。

「果たして年金をもらえるかどうか不安。AIに仕事を奪われ、家族や地域も縮小して寂しい老後が待っているような気がする」... 等。

リンダ教授は「数字に表され、目に見える【有形資産】と、目には見えない【無形資産】は、密接に関わりを持っているので、若い内からそれらの両方を磨く心掛けが必要だと説きます。

私は人生百年時代に「無形資産を育てる場こそお寺ではないか!」と思えます。お寺に来れば、同じ悩みを抱えた法友との出会いがあります。

お悔み申し上げます。★編輯朗報(82) 1月20日往生合掌カンパありがとうございました。

お墓やお骨でお困りの方へ。4月20日(土) 1時三全仏婦主催。初参式の赤ちゃん・幼児大募集!

若坊守の子育て日記No.110

子供が通う小学校は、入学すると「見守り隊」の方にお世話になります。主に一年生の下校時に自宅近くまで付き添って下さるボランティアさんで、登校時も車通りの多い交差点で横断旗を持ち見守りをして下さいます。



「見守り隊」はボランティアですが、学校からの要請でもあり、後継者を決めなければいけません。責任があり、体力と時間も必要です。現在探していますが難航しそうです。

俳壇

満場を湧かす小兵や初相撲 釋妙水
もらったよどこへ置いたかお年玉
火葬すみ悴む手の中ぬくもりが
柔らかに校舎に夕日春近し 釋榮邦

☆ 編集子より ☆
「善正寺だより」363号をお届けします。◇能登半島地震の被災地は、真宗王国であり、7割以上のお寺が被害を受けた。衷心よりお見舞い申しつつ、支援を継続したいと思う。◇東海地方は南海トラフ巨大地震が2、30年ほどの時期に発生する確率が高いと言われる。防災、減災への認識を持ちつつ、地域社会の絆を維持する必要性を痛感させられる。◇能登の惨状を視野に、念仏相續怠りなく願う。合掌。

二月から中日新聞で「誰そ彼」のときどきという連載が始まりました。超高齢化社会になり、私の周りにも高齢者夫婦や独占老人が沢山います。「これは他人事ではない、我が身に襲いかかってもおかしくない」と関心を持って読んでいます。記事では認知症が始まった老夫(97)を、一人で介護する老妻(87)と、近くに住む娘が登場。かかりつけ医が「このままでは老夫は昼間体操やカラオケで楽しく過ごしますが、夕方になると玄関に立ちじっと外を見つめます。家に帰る」と言い張りますが、誰も迎えに来ません。職員が声をかけますが、玄関を動かそうとはしません。他の利用者達が「家族がいるのにどうして面倒見てくれないのか?」と、今まで一生懸命やってきましたのに、「生きていても仕方ない」と不平や不満を口にします。施設長は「まだお迎えの順番が来ていないよ。せうかく恵まれた命だから大切に生きよう。愚痴は全部聞かからね」と慰めます。施設入居を勧めた医師も「介護をする家族も誰かに話を聞いてもらうことで救われる。地域で家族や本人のことを理解して話ができる人、頼れる人が必要です。一人で暮らすという人がいることが大事です」と語りました。これを聞いて私達お寺の人間こそ、その役割が相応しいのではないかと思います。施設を利用する人と、介護する家族の両方の悩みを受け止め心に安らぎを与えられる坊守になりたいと思います。3月16、17日の春季永代経にぜひお参り下さいませ。講師は加藤学先生です。

合掌

令和六年三月

善正寺坊守 拝